

くまた英語 スコアが上がる TOEIC 模試活用法



あなたの今の実力を測定して弱点を分析すれば
最短で目標スコアに届く方法が分かる

■ はじめに

このレポートでは、あなたの今の実力の測定方法と、弱点の分析方法を紹介します。

かの有名な孫氏の言葉に「彼を知り、己を知れば、百戦して危うからず」という名言がありますが、これは相手と自分を分かっているならば必ず戦いに勝てる、という意味ですね。

TOEIC でもこれを実践することで、最短でスコアを伸ばす戦略を作ることができます。

具体的なやり方としては、まず模試をおこなって「実際に敵（TOEIC テスト）のことを知り」、そしてその模試の結果を分析して「己（今の実力と弱点）を知る」という 2 ステップになります。

今あなたの足を引っ張っている弱点を把握できれば、その弱点を克服するために何を勉強すれば良いかが決められますよね。
あとはその勉強を継続するだけです。

実際、短期間で高得点を取る人の多くが「模試」を数多くこなしているという事実からも、この方法の効き目の高さをうかがい知ることができます。

ただそうはいつでも、「模試をやると良いですよ」と書いてだけでは、模試の細かい活用方法までなかなかお伝えできません。

そこでこのレポートでは、**点数につながる具体的な模試の方法と活用法**を紹介します。「点数の伸び悩みを感じる」「自分に必要な勉強方法を知りたい」場合は、ぜひ参考にしてくださいね

■ 目次

■ はじめに	2
■ 家で模試を行う方法	4
模試の実践方法	4
■ 模試の採点方法	6
間違えた問題を復習する	6
模試の正解数を算出する	7
TOEIC の配点について	8
目標スコアに必要な正解数と比較する	10
苦手パートを把握する	11
入力シート例 A	11
入力シート例 B	12
改善点がある場合の対策例	13
■ さいごに	15
■ 本レポートに関する情報	17

■ 家で模試を行う方法

それではまずは、模試の実施方法について解説していきます。

模試の実践方法

使用する本としては、最初は公式問題集からはじめると良いでしょう。

もしすでに解いてしまっている場合には、しっかり 1 回分の模試が収録されており、マークシートの回答用紙が付属しているものであれば、他の問題集でも大丈夫です。

問題集を準備したら、家で模試を行う場合でも **出来る限り本番と同じ環境**を整えていきましょう。

ただこれだけでは、具体的に何をどうすれば良いのか分かりにくいですね。次のページに模試環境を整える際のポイントをリストアップしたので、チェックシートとしてご活用ください。

【参考資料① 家で模試を実施する際のポイント】

No.	項目	チェック
1.	家族などにあらかじめ伝え、2 時間邪魔が入らず模試に集中できる環境を用意できているか	☐
2.	お手洗いはすませているか	☐
3.	時計は見えるところにおいてあるか	☐
4.	開始時間と終了時間を決め、終了時間（リーディングパートが終わる時間）をアラームにセットしたか。	☐
5.	鉛筆、予備の鉛筆、消しゴム、マークシートの準備はしてあるか	☐
6.	リスニングパートの音声を流す機器の準備は万全か 途切れることなく音声が流れる状態か	☐

■ 模試の採点方法

それでは次に、模試が終わった後に行うことを説明していきます。

間違えた問題を復習する

まずは採点をして間違えた箇所の解説を読み、なぜ間違えたのかの理由を自分の中に落とし込んでいきましょう。

先ほど模試の本は何でも良いと書きましたが、できれば**解説が分かりやすいもの**のほうが良いですね。

というのも、間違えた問題を復習する際に、解説が分かりにくいと**「なぜ間違えてしまったのか」の理由**が理解できず、せっかく行った模試を活かしきれないからです。

なお解き終わった模試は、間違えた問題を確認するだけではなく勉強の教材としても使うことができます。

たとえばリスニングパートを何度も聴いていくことで、効率的にリスニング力を鍛えていくことができます。

さらにこの模試の結果は、今後の戦略を練るために使うことができます。
この部分が今回のレポートの主題となりますが、模試のもうひとつの活用法を説明していきますね。

模試の正解数を算出する

模試を行った後は、正解数をパート別に割り出してってください。この際、点数に換算したい場合には **1 問 5 点で採点をしていく** と良いでしょう。
模試の結果を入力するシートはこちらです。

【参考資料② 模試の結果の入力シート】

パート	問題数	全問正解時の 点数目安*	★正解数 入力	★1 問 5 点で 採点
パート 1	6	30		
パート 2	25	125		
パート 3	39	195		
パート 4	30	150		
パート 5	30	150		
パート 6	16	80		
パート 7 前半	29	145		
パート 7 後半	25	125		
合計	200	1000*		

*配点が公表されていないため、便宜上 1 問 5 点で配点した場合の点数となります。

実際の点数とは異なる点、ご了承ください。

*満点は実際のテストでは 990 点となります。

TOEIC の配点について

なお TOEIC テストの配点は事前に決まっておらず、毎回テストの後、受験者の正解率によって決定します。

というのも、もし配点が事前に決まっていると、問題が簡単なときに TOEIC を受けた人はみんな高い点数を取ることができてしまいます。反対に問題がむずかしいときに TOEIC を受けると、努力した人も低い点数しか取れません。

こういった不公平を防ぐため、配点はテストの後の正解率を割り出してから決める仕組みなのです。

そのため、自分で模試を採点する際には、**点数をそのまま問題数で割った 1 問 5 点という配点**がよく利用されています。正確ではないものの、ある程度の目安となります。

本レポートでも自宅で模試を行う場合には **1 問 5 点で採点することをおすすめ**します。

ただこういった理由により点数は実際のスコアとはズレる可能性がある点、ご了承ください。

なぜ点数に換算するほうが良いかというと、模試の結果を点数に置き換えておくほうが本番テストをより強く意識でき、勉強のモチベーションアップにつながるからです。

実際に私も TOEIC 勉強中は、自宅で模試を解いた後には常に 1 問 5 点で点数を算出していましたが、本番に向けて、適度に緊張感を高めていくことができました。

※1 問 5 点のより詳しい計算方法は下記をご覧ください。

■ 1 問 5 点の詳しい算出方法について ■

TOEIC テストはリスニング 100 問、リーディング 100 問、合計 200 問のテストです。
満点は 990 点ですが、これだと中途半端な数字になってしまうため、便宜上満点は
1000 点とします。これを 200 問で割ると、1 問 5 点という数字がでできます。

TOEICテスト合計
1000点

÷

リスニング問題+リーディング問題
200問

= 5点

公式問題集付属の別冊「解答・解説」のはじめに正解数と参考スコアのレンジが掲載
されているので、点数の付け方について知りたい方は、そちらも参考にしてください。

■ 模試の結果の分析

ここまでで正解数と得点を出してみました。

それではいよいよ、自分の目標スコアに到達するためにどれぐらいの点数が必要なのか、またどのパートが足を引っ張っているのかを分析していきましょう。

目標スコアに必要な正解数と比較する

まずは目標スコアに必要な正解数と模試の結果を比較してみてください。

こちらは公式問題集のスコア換算表などを基に作成した、目標スコア別の正解数目安表となります。

たとえば TOEIC800 点以上を取りたい場合は、模試の段階で 166 問以上正解している必要がある、ということになります。

実際には先ほどご紹介したとおり配点はテストによって変わるため正確にこのとおりにはなりませんが、おおよその目安としてご参照ください。

【参考資料③ 目標スコア別正解数目安】

目標スコア	①リスニングパート 正解数	②リスニングパート 正解数	① + ②
600 点以上	63	63	126
700 点以上	73	73	146
800 点以上	83	83	166
900 点以上	93	93	186

苦手パートを把握する

大まかな正解数の比較を行った後は、どこが足を引っ張っているのか、細かく分析していきましょう。

例を2つ見ていきながら、分析方法を説明しますね。

もしあなたの目標スコアが 800 点以上であるとする、先ほど書いたとおり、リスニングパートとリーディングパート合計で 166 問以上正解をしておきたいところです。

まずは1つ目の例【入力シート例 A】を見てみます。

入力シート例 A

【模試の結果の入力シート例 A】

★のついた右列2つは模試を実施後に入力

パート	問題数	全問正解	★正解数 入力例	★1問5点で 採点
パート 1	6	30	5	25
パート 2	25	125	22	110
パート 3	39	195	32	160
パート 4	30	150	24	120
パート 5	30	150	27	135
パート 6	16	80	13	65
パート 7 前半	29	145	24	120
パート 7 後半	25	125	19	95
合計	200	1000	166	830

この結果を分析すると、パート 1、パート 2、パート 5 といった比較的点数を取りやすいパートではミスは 1 割程度、その他のむずかしめのパートでのミスは 2 割程度におさえている印象です。バランスが良いといえるでしょう。

正解率も基準を満たしているので、引き続き今の勉強法を継続し、本番テストに備えていくと良いという判断ができます。

次に 2 つ目の例【入力シート例 B】を見ていきましょう。

入力シート例 B

合計の正解数が 147 問なので、今の段階のままの実力では 800 点を取るのは厳しそうですね。

【模試の結果の入力シート例 B】

★のついた右列 2 つは模試を実施後に入力

パート	問題数	全問正解	★正解数 入力例	★1 問 5 点で 採点
パート 1	6	30	5	25
パート 2	25	125	22	110
パート 3	39	195	32	160
パート 4	30	150	24	120
パート 5	30	150	27	135
パート 6	16	80	13	65
パート 7 前半	29	145	14	70
パート 7 後半	25	125	10	50
合計	200	1000	147	735

この表を見ると、明らかにパート 7 が足を引っ張っていることが分かります。

もちろんリスニングパートの勉強も続けていく必要がありますが、リスニングの点数をさらにあげていくよりも、リーディングパートを引き上げることに力を入れるほうが点数アップに直結しやすいでしょう。

改善点がある場合の対策例

では入力シート例 B について、具体的に勉強方法を考えていきます。

たとえば、次のように対策が考えられるでしょう。

- パート 7 の読解力を強化する必要がある。英文を読むことにもっと慣れていこう。長文読解用の問題集を 1 日 30 分解いていく時間を作ることにする。

正解数だけではなく、かかった時間や解き方など詳しい状況を加味すれば、さらに細かい対策を考えることができます。

たとえば、「パート 7 が解き終わらなかった」「いつも英文を読むのに時間がかかりすぎてしまい、リーディングパートで時間が足りなくなる」といった状況の人がいたら、速く読むための対策も必要ですね。

私なら次のようなアドバイスをします。

- もし英文を読むときに前から後ろに読み進めず、後から前に英文を読み返すような読み方（返り読み）をしている場合には、早めにこの読み方のクセを直す必要があります。今後長文を読む際には、たとえ一文が長い時でも返り読みはしないように意識していきましょう。

- パート5とパート6を解く時間が多くかかっている場合には、もっと短くしていくと良いでしょう。もし800点以上を狙うのであれば、パート5とパート6は20分～25分程度で解き終わることを目標にしていきましょう。パート7は、パート5とパート6で時間を取り過ぎると不利になってしまいます。速く解くためには新しい問題を解くだけでなく、一度解いたパート5の問題を何度も繰り返していき問題に慣れていくという方法も有効です。取り入れてみてください。

このように弱点を詳しく把握できれば、弱点克服のための方法が見えてきます。

模試の結果を分析して、ぜひ、苦手パートを克服する対策を普段の勉強に取り入れてみてくださいね。

どのように勉強すると良いか、スキルを上げるための勉強法は、くまた英語のサイトやメルマガでもお届けしていきますので、ぜひ参考にしてください。

引き続きあなたの英語、応援しています！

■ さいごに

お読み頂きありがとうございました。

今回の模試の分析方法はシンプルですが、その効果は強力です。

私自身 4 カ月で TOEIC960 点を取得した時のことをふりかえったとき、一番効果があった勉強法は「1 週間に 1 度模試を実施したこと」そして「その結果を基に勉強方法を変えていったこと」であったと断言できます。

ただ大人は、模試のために 2 時間というまとまった時間を取るのがなかなか大変ですよ。

お休みの日に色々な予定が入ったりしますし、小さな子供がいたりすれば、1 時間もたたないうちに必ず邪魔されてしまいます ^^ ;

ですがそこを何とか調整して、ぜひ本番前には何度か模試を行うことをおすすめします。

本番に近い形で模試を行っておけば集中力を継続させることにも慣れ、本番で力を発揮しやすくなります。

忙しい中でも続けてきた努力は、きっと報われます。

あなたの TOEIC スコアが上がることを心から願っています。

本レポートに関するご質問、ご感想などあれば
こちらまでお気軽にメールください。

kumata_eigo@wakaba.space

件名に本レポートのタイトルを付けていただけると助かります。

時期によってお時間頂いてしまうこともあるかもしれませんが、頂いたメール
は必ず拝読しております。

お読み頂きありがとうございました。



■ 本レポートに関する情報

■ 発行者：くまた英語 加藤じゅんこ

■ サイト URL:

<https://kumata-eigo.create-more.net/>

■ プロフィールページ：

<https://kumata-eigo.create-more.net/profile/>

■ Youtube チャンネル：

<https://www.youtube.com/channel/UCoVIWoW37GJk5tFUDF8U23w>